

令和5年度決算の概況【ガス事業会計】

1 業務実績等

① 託送供給量は、商業用が増加しましたが、家庭用、工業用が大きく減少したことから、全体としては前年比6.5%の減少となりました。

	R5 A	R4 B	増減(A-B) 比率(A/B)	備 考
受入ガス量(千m3)	121,618	129,965	△ 8,346 93.6%	
一日平均(千m3)	332	356	△ 24 93.3%	
① 託送供給量(千m3)	126,136	134,834	△ 8,698 93.5%	
一日平均(千m3)	345	369	△ 25 93.3%	
託送供給件数(千件)	102	102	0 100.3%	
@供給単価(円/m3) (託送供給収益/託送供給量)	25.7	24.8	0.9 103.6%	
@供給原価(円/m3) (@維持管理費+@資本費)/託送供給量	24.2	22.2	2.0 109.0%	
うち@維持管理費(円/m3) (維持管理経費/託送供給量)	16.0	14.5	1.5 110.3%	
うち@資本費(円/m3) ([減価償却費等+利息-長前]/託送供給量)	8.2	7.7	0.5 106.5%	

令和5年度に実施した主な事業

- ・導管のループ化(南郷一丁目、柳が崎)(R5事業費:60百万円)
- ・供給申請に伴うガス導管整備等(R5事業費:265百万円)
- ・耐震性ガス導管網整備事業(R5事業費:185百万円)
- ・経年管改良事業(アスファルトジュート巻鋼管改良他)(R5事業費:158百万円)

令和5年度決算の概況【ガス事業会計】

〔単位:百万円〕

2 比較損益計算書

減収減益

- ①売上総利益は、託送供給収益の減少により前年比97百万円減の3,247百万円となりました。
- ②附帯事業収益及び費用はほぼ収支均衡しており、総営業利益は157百万円となりました。
- ③託送供給収益の減少及び営業費用の増加から、経常利益は昨年度より減少しました。
- ④特別利益の計上がなくなったことから、当年度純利益は昨年度より減少しました。

①

②

③

④

	R5 A	R4 B	増減額 A-B	備 考
ガス事業売上高	3,248	3,345	△ 97	
ガス売上	1	1	0	LPG売上
託送供給収益	3,247	3,344	△ 97	
営業費用のうち売上原価	1	1	0	
売上原価	1	1	0	LPG売上原価
売上総利益	3,247	3,344	△ 97	
営業費用	3,113	3,019	94	
供給販売及び一般管理費	3,113	3,019	94	
維持管理費	1,920	1,897	23	
減価償却費	1,047	1,061	△ 14	
固定資産除却費	146	61	85	国道477号他工事移設工事等
営業利益(損失は△)	134	325	△ 191	
営業雑収益	448	415	33	
受注工事収益	448	415	33	
その他	0	0	0	
営業雑費用	432	404	28	
受注工事費用	432	404	28	
営業総利益	150	336	△ 186	
附帯事業収益	162	157	5	
特定事業収益	162	157	5	ガス料金収受等に係る収益
附帯事業費用	155	152	3	
特定事業費用	155	152	3	ガス料金収受等に係る費用
総営業利益	157	341	△ 184	
営業外収益	131	91	40	
受取利息	31	26	5	
他会計負担金	4	5	△ 1	児童手当繰入金
長期前受金戻入	63	26	37	
雑収益	33	34	△ 1	
営業外費用	21	20	1	
雑支出	21	20	1	不用品売却原価
経常利益(損失は△)	267	412	△ 145	
特別利益	0	77	△ 77	(R4)固定資産売却益 中央二丁目
特別損失	0	8	△ 8	
当年度純利益(損失は△)	267	481	△ 214	
前年度繰越利益剰余金 (その他未処分利益剰余金変動額)	0	0	0	
当年度未処分利益(未処理欠損は△)	267	481	△ 214	

令和5年度決算の概況【ガス事業会計】

〔単位：百万円〕

3 比較貸借対照表

- ①自己資本比率は、無借金状態であることから依然高い水準となっています。
 ②流動比率は前年度より増加し、高い水準を維持しています。
 ③事業収益対企業債残高比率は、平成27年度より完全無借金となったことから、算定不能となっています。

	R5 A	R4 B	増減額 A-B	備 考
資産の部				
固定資産	19,049	19,174	△ 125	
有形固定資産	11,337	11,447	△ 110	
帳簿価額	52,467	51,644	823	供給設備+854、業務設備△31
償却累計	△ 41,198	△ 40,288	△ 910	
建設仮勘定	68	91	△ 23	
無形固定資産	64	79	△ 15	
投資その他の資産	7,648	7,648	0	
流動資産	12,634	12,378	256	
現金預金	11,343	11,130	213	
売掛・未収金	835	794	41	
有価証券	400	400	0	満期保有目的有価証券
貯蔵品等	56	54	2	
資産合計額	31,683	31,552	131	
負債の部				
固定負債	659	635	24	
引当金	659	635	24	
流動負債	2,029	2,204	△ 175	
買掛・未払金・未払費用	565	411	154	未払工事費(ガス装置内管工事等)の増 +78
前受金	203	165	38	
引当金	44	42	2	
預り金ほか	1,217	1,586	△ 369	原料調整費下落による預り金減 △357
繰延収益	319	305	14	
長期前受金	431	400	31	
収益化累計	△ 112	△ 95	△ 17	
負債合計額	3,007	3,144	△ 137	
資本の部				
資本金	25,409	24,927	482	
資本金	25,409	24,927	482	前年度利益処分 27 建設改良積立取崩 455
剰余金	3,267	3,481	△ 214	
利益剰余金	3,267	3,481	△ 214	
積立金	3,000	3,000	0	災害対策積立
当年度未処分利益	267	481	△ 214	
資本合計額	28,676	28,408	268	
負債・資本合計額	31,683	31,552	131	

	指 標	R5	R4	増減	指標の説明
①	自己資本比率	90.5%	90.0%	0.5%	総資本のうち自己資本の占める割合を示し、比率は高いほど経営の安定性は大きい。
②	流 動 比 率	622.7%	561.6%	61.1%	短期の支払い能力を示す指標。比率は100%以上が望ましい。
③	事業収益対企業債残高比率			無借金につき算定できない	借金が収入の規模に見合っているのかを図る指標。過度に高い場合は将来世代の負担が高まっている可能性があります。

令和5年度決算の概況【ガス事業会計】

〔単位：百万円〕

4 剰余金の処分

- ①繰延収益相当額を自己資本金に組み入れます。
②建設改良積立金を積み立てます。

当年度末未処分利益剰余金	267
利益剰余金処分数額	
① ② 条例第4条の5による処分数額	△ 267
自己資本金組入（繰延収益相当額）	△ 63
建設改良積立金の積立	△ 204
処分後残高（繰越利益剰余金）	0

5 キャッシュ・フロー計算書

☆業務C/F(1,044百万円)から、投資C/F(831百万円)を差し引いた金額がプラス(+213百万円)となっており、本業で投資を賄える状態です。

	R5 A	R4 B	増減額 A－B	備考
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	1,044	1,756	△ 712	
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 831	△ 813	△ 18	
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	
資金増加額（又は減少額）	213	943	△ 730	
資金期首残高	11,130	10,187	943	
資金期末残高	11,343	11,130	213	

【総括】

経営成績については、主に家庭用や工業用のガス需要が減少したことに伴い、託送供給収益も減少し、昨年度を下回る当年度純利益となりました。今後も市域でのガス供給量は減少傾向にあることを踏まえると、収益の大幅な増加は期待できない状況であり、より効率的な業務執行と経費の節減を継続していく必要があります。

このような中、効率的な業務執行と経費の節減を図りながら、安全・安心にガスを供給するため、中長期経営計画(経営戦略)に基づき、計画的な導管整備や災害対策、ガス施設の安全管理、大津市ガス特定運営事業等に係るモニタリングに引き続き取り組んでいきます。